

アクセス方法
 <車とバス>
 東北新幹線「東京駅」→「仙台駅」→JR東北本線「石巻駅」
 →ミヤコーバス「石巻駅」→「鮎野川」
 →北上地区住民バス「鮎野川」→「北上中学校」(約5時間)
 <車>
 三陸道「石巻河北IC」→国道45号線→国道197号線(約30分)

memo



小さな旅

～こころのふるさとをみつめて～

コブック vol. 143

母なる流れ
 ～宮城県 石巻市北上町～

2014年5月18日(日)放送

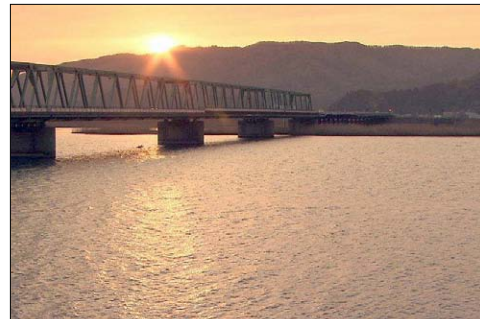
小さな旅 ホームページ
<http://nhk.jp/kotabi>



ふるさとを彩る小さな命

東日本大震災で壊滅的な被害を受けた北上川河口の一带
 は、再び災害が起きたときの危険が高いと、新たに住宅を
 建てることを禁じられました。それでも、ふるさとに思い
 を寄せ、かつて家のあった場所に新しい家から畑を耕し、
 花を植える人たちがいます。
 訪れた北上町吉浜にはさら地に敷(うね)が連なり、野菜
 は青々と美り、かみくに咲く花々の姿がありました。今も
 震災の爪痕が残るふるさとを小さな命がそっと彩ります。

宮城県石巻市北上町。
 東北一の大河「北上川」の河口に沿って広がる町です。
 震災で、津波は川をさかのぼり、深い爪痕を残しました。
 それでも、北上川に群生するヨシ原では、ことしも春の
 火入れが行われます。浜では、ワカメの出荷作業。すべてを
 失いながらも、作業場を再建し、船を手に入れ、海に向
 かう家族がいます。そして、さら地となった故郷に通い、
 畑を耕し続ける女性。集落では、春の祭りが復活します。
 復興へ歩む人々を訪ねる旅です。



『火入れ』ヨシ原の

北上川河口から5キロほど上流には、東北最大のヨシ原が
 広がります。かやぶき屋根の材料となるヨシ。北上川の
 ヨシは、まっすぐで丈夫なため、今も日本各地の民家や
 文化財の屋根に用いられています。津波で7割かき倒
 され水没しましたが、少しずつ回復してきました。
 「火入れ」は冬の刈り取りが終わったあと、古いヨシを
 燃やし、芽吹きを促すために行います。火入れから1週間
 ほどで、新芽が河原に広がります。

春の味 北上川河口のワカメ

北上川から海沿いに集落が連なる十三浜地区。漁業が
 盛んなこの地区で、震災後いち早く漁の再開を支え
 たのが、ワカメの養殖でした。淡水と海水がぶつかる
 荒波と、北上川が運んできた山の栄養が育む十三浜
 ワカメは、肉厚で風味豊かと知られています。
 4月末、春が旬のワカメは、出荷が追い込み。漁師
 たちが水揚げしたワカメを、女性たちが次々と仕分け
 していきます。根気のいる作業ですが笑顔の絶えない、浜の
 風景です。

